

2023(令和5)年度 第1回 Salon De 大学コンソーシアム大阪
生成 AI ハンズオンセミナー
開催報告

日 時: 2023(令和5)年 11 月 22 日(水) 18:00~20:00
会 場: キャンパスポート大阪(大阪市北区梅田 1-2-2-400 大阪駅前第 2 ビル 4 階)
講 師: 那須野 峻平氏(大阪電気通信大学 工学部 電気電子工学科)
司 会 進 行: 葛西 崇文氏(研修部会推進委員会 副委員長/大阪女学院大学 教務・学生課 課長)
企 画 統 括: 宮原 秀明氏(研修部会推進委員会 委員長/大阪学院大学 大学事務長)
コーディネーター: 早野 秀樹氏(大阪電気通信大学 法人事務局 総務部 部長)
申 込 者 数: 10 大学 17 名
参 加 者 数: 10 大学 15 名
実 施 結 果: 大学コンソーシアム大阪 HP の「参加者アンケート」参照
企 画 ・ 運 営: 大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員会

1. 開催概要

2022 年 11 月末に公開された ChatGPT 3.5 は、大学や大学教育だけではなく、社会全体に大きな影響を与えており、大学教職員として、この新たなツールについて知っておくことは、避けては通れないことと言える。本サロンでは、Google アカウントと ChatGPT アカウントを連携させるところから始め、実際に文章を生成させながら、AI に関する理解を深める。また、教職員が日頃利用することが多いメールへの応用や、Google が開発した対話型 AI である Bard との比較も行い、生成 AI の機能を体験するものとする。

2. プログラム概要

はじめに那須野講師より、ChatGPT の概要および使用上の注意点、導入方法について説明があり、参加者は深津式プロンプトに基づいて自己紹介文を作成した。次に質問入力のポイントやチャットを切り替えるタイミングについての講義を踏まえ、メールの作成に取り組んだ。また、ChatGPT の特徴、利点、欠点、利用のポイントや応用技術について学び、社内文書の作成を試みた。後半は比較対象として、Google 社が開発した対話型 AI である Bard にログインのうえ、使用感を確かめた。さらに講師より ChatGPT と Bard の違いについて説明があり、使用にあたっての留意点が示された。その後、時間の許す限り追加課題(持ち物リスト作成、ロコミ作成、献立作成)に挑戦した。



講師: 那須野 峻平氏

3. 講義概要

＜ChatGPT の概要と使用上の注意点＞

- ・ChatGPT とは、OpenAI 社が開発した生成 AI であり、画像、文章、音声、プログラムコード、構造化データなどさまざまなコンテンツを生成することのできる人工知能である。
- ・入力したデータがすべて OpenAI 社に提供されること、その知識が 2021 年 9 月までのものであることによる影響や、回答が正確ではない可能性に留意する必要がある。
- ・ガイドラインに違反する使い方は避ける必要がある。

＜深津式プロンプトと指示(質問)方法について＞

- ・深津式プロンプトとは、深津貴之氏により考案された指示(質問)方法であり、命令書/制約条件/入力文の三部より成る。求めている回答は単文の入力では得られないことが多いことから、この方法は指示(質問)内容を明確にするために有効である。
- ・指示(質問)の際は、文字数制限と改行を用いること、指示内容や前提条件を明確にすること、追加情報を入れて再質問することを意識するとよい。
- ・話題やテーマが変わるとき、題材が長くなったとき、エラーが出たときは新しいチャットに切り替えたほうがよい。

＜ChatGPT の特徴、利点、欠点、利用のポイント、応用技術等＞

- ・大量のテキストデータを学習し、自然な言語生成を実現していることが特徴。
- ・利点は高い精度、柔軟性、独自性、時間とコストの削減、進化性。

- ・欠点はデータの偏りや依存性、情報漏洩のリスク、膨大な計算リソースの必要性、そして倫理的な懸念もある。また日本語より英語の処理速度が速く、データが重い。
- ・金融大手の三井住友フィナンシャルグループが独自の対話ソフトを導入することで、今後対話式 AI が幅広くビジネスに活用される可能性が高まっている。
- ・有料版である ChatGPT-4 と無料版の 3.5 では精度に違いがある。

<Bard の概要と ChatGPT との違い>

- ・Bard とは Google 社が開発した生成 AI で、日本語も搭載している。質問に対して1つ以上の回答を用意してくれることから、複数の案が必要なときに便利である。
- ・Bard はより包括的な応答や複雑なタスクを実行できることや、Google 検索を介して最新かつ幅広い情報を提供することができるという特徴がある。
- ・一方 ChatGPT は長い文章を生成することに優れている。
- ・それぞれの特徴を知り、用途に応じて使い分けてほしい。

<ChatGPT、Bard 使用にあたっての留意点>

- ・ChatGPT、Bardともに、入力した情報が流出する可能性があることから、情報の取り扱いに十分な注意が必要である。
- ・過度な使用は自らの思考力が削がれ、情報の取捨選択能力に影響が出る可能性があることから、補助的に活用することを勧めたい。

4. 質疑応答

質問1: AI で生成した画像や文書の見分け方はあるか。

回答1: 人物画像の場合は、目の違和感や指の本数等で分かる場合もあるが、必ずしもあるわけではない。文書については、生成されたものかどうかをAIに質問するという方法もあるが、内容がアレンジされていけば見分けられず、難しい。

質問2: 学生は日常でどんな使い方をしているのか。

回答2: 自ら(学生)はプログラムの修正や人生相談に使っている。人生相談についてはポジティブなことを言ってくれるので、精神衛生によい。



司会: 葛西副委員長

5. 閉会挨拶

本日は学生の方から授業を受けるという貴重な機会でもあったかと思う。生成 AI については、教育現場でも様々な課題があることから、本サロンがそれをどのように使うかを考えるよい機会になれば幸いである。ChatGPT はスマホで使うことも可能で、会話をするように音声入力もできる。また、学生達は主にスマホで利用しているかもしれない。自らも毎日の振り返りや、業務上の文章作成に活用しており、有効性を実感しているが、一方で誤った情報に触れたこともある。他の業務と同様に確認は必要であるが、便利なツールであることから、触れずに遠ざけるのではなく、大学職員として今後うまく活用してほしい。



閉会挨拶: 宮原委員長



6. 参加者アンケート結果

「参加者アンケート」に掲載

以上